

『旧三井家下鴨別邸 見学会と習字教室』と銘打って

関西支部事務局

「旧三井家下鴨別邸」は、明治、大正にわたって建築、移築し、昭和24年(1949)には国に譲渡され、平成23年(2011)に重要文化財として指定されました。庭園が配され、茶室もあり4層にもなる木造建築は、実に趣のある建物ですが、その2階から3階の居室は通常は非公開、特別公開時のみ見学が可能です。

今回はこの2階の1室をお借りして、同志社大学の留学生に向け、習字教室、そして抹茶体験と館内見学と、盛り沢山の企画をしました。

日時 2018年12月15日(土)13時30分から16時

場所 旧三井家下鴨別邸

留学生 6名

習字指導 毎日書道会「会員」北岡瑞桐先生、大林義典先生

教室運営 三井V-Net会員11名

会場は重要文化財のため、開催前日に旧三井家下鴨別邸へ足を運び、旧三井家下鴨別邸スタッフ、ボランティアの方々が、室内に万全の養生をして準備しました。

今回の習字教室に参加の留学生は、中国、台湾、韓国といずれも習字には経験があるように思えたのですが、意外やほとんど経験がないと聞いて、逆に驚かされました。



しかし、さすがにお箸の国の留学生なので、筆を持つことには抵抗はなかったようです。そこからは先生方の指導、ボランティアの方々からのアドバイスと、お手本をしっかりと見つ、戸惑いながらも徐々に「日本の習字」の書き方に慣れてくると、その後はどんどん漢字を書いていき、先生に添削していただいた時に大きな赤丸をもらうようになると、手ごたえを感じていくようでした。

最終目的のカレンダーを書き上げ、それぞれの名前を左下に小筆で書くのに、四苦八苦。しかし、それぞれ自分の仕上げたカレンダーに先生方やボランティアの方々から称賛の声を貰い、満足げな様子でした。

北岡先生、大林先生からは自筆の書をお土産にいただき、自分の作品と一緒に大切に持ち帰りました。

習字教室も終わり、簡単に作法を教わりながら抹茶の体験をした後、館内、庭園を見学し散会しましたが、最後に庭を散策して終わる頃には留学生から、またこんな企画があったら是非参加したいとの声を聞き、準備段階から当日まで、多くのスタッフ、ボランティアの方々の思いが伝わったと感じさせられました。

